

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成24年度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動
重点課題	自ら学ぶ学習態度の育成とわかる授業の推進、基礎学力の定着
現 状	各教科の授業において、自ら学習する態度に欠ける生徒がいる。各科目の授業においては、生徒の実態を踏まえながらその指導方法の工夫・改善を進めて分かりやすい授業の推進を図るとともに、生徒の自主的な学習態度の育成と学習意欲の向上を図る必要がある。 ・中学校程度の基礎的な計算力が不足していることから、特に専門教科の授業について内容を十分理解できない生徒が多数いることから、中学校までの基礎的な計算力を確実に身に付けさせる必要がある。 ・各種検定や資格の取得に向けた補習を実施するなどして、生徒の資格取得への積極的な取り組みを促し、自ら学習する態度の育成を図っている。
達成目標	互見授業と授業アンケートの実施 ・年1回以上他の教員の授業を見学する。 ・担当授業の生徒に対して、年1回以上理解度アンケートを実施する。 基礎計算力テストの実施と分析 ・年2回(年度当初、年度末)にテストを実施する。 ・年度末のテストの全ての設問の正答率を70%以上とする。
方 策	・他の教員の授業を見学することにより、自身の授業を改善する。 ・生徒に対する授業アンケートにより、生徒自身に学習態度の振り返りをさせるとともに、指導内容の理解度や意欲を把握する。これによりより分かる授業に改善する。 ・年度当初の基礎計算力テストの結果を踏まえ、正答率の低い問題について関係教科で連携し、対策を講じる。
達成度	・授業見学は教諭55名中22名実施(40%)、授業評価は教諭55名中21名実施(38%) (1月末現在) ・基礎計算力テストは予定を含め2回実施(第1回は4月17日(日)実施、第2回は3月6日実施予定)
具体的な取組状況	・授業見学は、H22年度から他の教員の授業の見学を推進することを目標に切り替えて実施してきた。 ・授業評価は、授業担当者が自ら質問項目を設定して、担当する生徒に対してアンケート等により実施している。 ・基礎計算力テスト4月の基礎計算力テストの結果を踏まえ、全ての設問で70%以上の正答率をめざし、関係教科で年間計画において重点をおいて指導することとした。 ・第2回は3月に実施する予定である。
評 価	C ・互見授業は、55名中、22名が実施(報告のあったもの)で、4割の教諭が実施している。実施回数は述べて38回実施された。 ・授業評価については、現在までに23科目延べ31回実施した。 C ・平成24年度1学年の第1回では、設問6題中2題が正答率70%に達しなかった。全体の正答率は56.7%(昨年度は56.4%)であった。今年度は、学科別の各設問の正答率を踏まえて、関係教科科目で関連する単元等で重点指導をすることとした。 なお、第2回の結果を踏まえて、あらためて評価したい。
学校関係者の意見	・実施率を少なくとも70%を目標にして欲しい。教えるということは尊いことだ。教える技術を高めて欲しい。 ・授業の良いところを見つけほめるようにして欲しい。そうすれば見られる側も受け入れやすくなる。 ・多くの先生にそれぞれの授業を見ていただき研鑽を積んで欲しい。 ・電卓に頼ると計算レベルが下がる。 ・各学科に必要な計算力をつけることは大変重要だ。 ・計算力テスト以外に漢字テストを実施しているのは良いことだ。続けて欲しい。
次年度へ向けての課題	○授業については、互見授業等により教科内で連携を図り、情報交換を密にしながら改善を進めていくことが重要である。また、生徒による授業評価もその一つの方策として有効と思われる。いずれも実施率が50%に達してはいないが、定着している面もある。今後も継続して取り組むとともに、より授業改善につながる方法を検討して実施率の向上を図るよう方法の見直しも必要と考える。なお、今年度の3学年では、新高校として最初の課題研究が実施された。1学年及び2学年で学んだものづくり学の集大成と位置づけていることから、その成果を確認したいと考え、「ものづくり学」に関するアンケートを実施した。その結果を踏まえて、ものづくり学の内容の改善を検討したい。 ○基礎計算力テストは、設定を全ての設問で70%以上の正答率を目指すとした。昨年度は、数学科で関係する内容に重点を置いて指導してもらった結果、小問題28問中、正答率向上が22問、内20ポイント以上向上したものが6問であった。ただし、22問中6問で、正答率が下がった。3月に実施する第2回の結果を踏まえて、指導方法とともに、問題の改訂を検討しながら、継続して行う必要がある。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成24年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-			
重点項目	学校生活		
重点課題	安定した生活習慣の形成		
現 状	・昨年度、寝坊や怠惰による遅刻は205回（一人当たり年間 0.27回）で、前年度比ではほぼ横ばいであったが、複数回遅刻している生徒が16人、のべ50回で全体の25%を占めた。遅刻が習慣化している生徒に対してより安定したより良い生活習慣を身につけさせる必要がある。		
	・昨年度、登下校時の交通事故は15件で、昨年度より7件の増となった。ほとんどが自転車の事故とはいえ重大な事故につながる事容易に予想されるので、運転時の交通ルールの徹底や危険箇所を提示し、より安全な登下校を促すよう指導する必要性がある。		
達成目標	寝坊や怠惰により遅刻する生徒を減らす	登下校時の交通事故の減少	
	・複数回遅刻する生徒の減少(15人以下)	・年間5件以下	
方 策	・複数回遅刻した生徒に対し、面接指導や奉仕活動などを通して、生活習慣の改善を図る。 ・「あいさつ運動」の継続実施。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。	・昨年度完成した地図上で示す交通事故ハザードマップを用いて、危険箇所を生徒に知らせる。 ・自転車点検を実施し、整備された自転車で安全に通学するよう指導する。 ・警察者などから講師を招き、交通安全教室を実施し、意識の高揚を図る。 ・ポスターなどによる安全意識啓発。	
達成度	13名		12件
具体的な取組状況	・複数回遅刻した生徒に対し、面接指導や清掃活動などを通して、生活習慣の改善を図る。	・昨年度完成したハザードマップを全生徒へ配布、およびクラス掲示し、交通安全に関する注意喚起をした。	
評 価	B	概ね達成できた。	C ハザードマップの周知の徹底、効果的な安全指導をしていきたい。
学校関係者の意見	・生徒は「遅刻」を悪いことと考えているのか。保護者に必ず連絡してはどうか。 ・遅刻は社会では受け入れられないことだと言うことを繰り返し言い聞かせる。会社でもそのように指導している。100回くらい言い聞かせるつもりで根気強く指導して欲しい。 ・遅刻と関係するが、ゆとりを持って登校する態度が大切だ。あわてれば、それだけ危険が増す。		
次年度へ向けての課題	・遅刻を繰り返す生徒に対しては、家庭と連携の強化を図り、正しい生活習慣を身につけさせたい。より効果的な解決策を考え、粘り強く指導していきたい。 ・交通事故に関しては、目標値を大きく超える12件の発生となり残念な結果となった。いづれも軽微な事故であったが、重大な事故につながる可能性も十分に考えられる。今一度、ハザードマップの周知の徹底、効果的な交通安全指導の在り方を考えていきたい。		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成24年度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 3 -			
重点項目	進路選択・決定支援		
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐくむ。		
現 状	・各方面の協力を得て実施した2学年の「インターンシップ」に関するアンケートの結果より、「進路を考える良い機会になった」と回答した生徒の割合は、平成22年度 約82%平成23年度 約88%であった。	・昨年度、就職した生徒のうち専門性を生かせる企業に就職した生徒は約93%(22年度80%)、進学した生徒のうち専門性を深めるために関連分野の大学・短大へ進学したものは70%(22年度80%)、専門学校では50%(22年度42%)であった。	
達成目標	インターンシップの満足度(2学年)	専門性を生かせる進路の選択	
	88%以上	就職90%以上、進学(4大、専門学校合わせて)70%以上	
方 策	・本校の2学年で全員インターンシップ実施は、ほぼ定着してきている。今年、内容の充実を図りたい。学年と協力し、各学科教科の専門性を生かした実習先の確保に努め、生徒たちが、インターンシップを通して、より専門科目に興味を持ち将来の進路選択できるように指導する。	・1年時には、ガイダンスやホームルーム等を利用、2年時にはインターンシップや実習等の授業で、3年時には課題研究等の授業で、本校の地域社会へ貢献や卒業生が工業の現場で活躍していることを紹介し、専門性を生かせる進路を考える機会を与えてよりよい進路選択や進路先を決定できるようにする。	
達成度	生徒アンケートによるインターンシップの満足度 ・インターンシップを行った職種(事業所)への関心 大変高まった28.5%+高まった61.6%=90.1% ・進路のついて考える参考になったか 大いになった41.3%+なった43.3%=84.7%	就職 80% 進学 大学・短大 74%、専門学校 48% 職能を含む進学全体で63%	
具体的な 取組状況	・事前調査で生徒から要望があった自動車整備・美術館・電気工事・美容院の新規開拓を行った。 ・学年集会や各クラスでの事前指導や担当者が企業と打合せをして、実習の内容や準備することなどを生徒に伝えた。	・1年生ではオリエンテーション、2年生では学年集会や進路ガイダンスを通して進路選択を考える機会を設けた。3年生においては学年主任や各クラス担任と進路指導部とが連携しながら、全体および個別に指導した。	
評 価	C 関心が高まった90%で達成も、参考になったが85%で、目標に達しなかったため、現状維持とした。	C 新高校として初めての卒業生を送り出す今年度は、昨年より土木環境科38名、工芸科9名、デザイン・絵画科18名で計65名生徒数が増えた。就職は22年度同等で、進学は23年度同等であったため、現状維持とした。	
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップは、1カ所だけでなくできれば複数体験できればよい。受入先で困っているなら協力する。 ・インターンシップの内容が、安全性を重視して、見学等が多い企業があると聞く。企業と内容の検討をして欲しい。 ・就職先を大企業ばかり目指さないで、中小企業も視野に入れる指導が大切だと思う。中小企業では個性を發揮できる場合が多い。 ・4S(整理・整頓・清掃・清潔)が基本である。基本的なことができるように生徒を指導して欲しい。 		
次年度へ 向けての 課題	・インターンシップの予備調査を1年次から行き、生徒の希望に沿った企業の新規開拓に努める。また、1年次からインターンシップを意識することで企業や職種について考え、専門教科への興味・関心を高めさせたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職に関しては、専門外であっても堅実な製造業へ多くの生徒が就職している。製造業であっても、専門性をいかせる職種に就けるよう求人の開拓が必要である。 ・高校で学んだ関連学科以外への進学は、社会科学系、公務員受験、医療・看護系、工業から芸術系、建築・土木環境から機械・情報系、スポーツトレーナー等多岐にわたる。まずは、専門性をいかした就職を勧めていきたい。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成24年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -4-		
重点項目	学校生活	
重点課題	学校行事および部活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none">・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。しかし、代議員による生徒議会を通じて、生徒の意見を聴取して活動に反映させるなどの、積極的な取り組みは十分とはいえない現状にある。・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は95%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や自主性が低いなどの悩みを抱えている部も散見される。	
達成目標	主たる活動において満足と回答する生徒の割合	部活動継続率
	80%以上	85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・各行事ごとに、アンケートを行い、満足度をはかる。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、生徒の積極的な行事への参加と生徒議会の活性化を図る。・教職員の体制を常に検証して、連携の強化と協力体制の維持に努める。・各集会や生徒会便りを通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒のやる気を高める。・各部の部員数調査を学期毎に行い継続率を調べる。そして、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。	
達成度	満足+ほぼ満足で評価 ・運動会 満足48.0+43.1=91.1% ・尚美展 満足32.8+47.4=80.2% ・球技大会 満足40.8+46.6=87.4%	継続率 1学期→3学期(部員数の変動で比較) 14名退部、16名入部、全体95.1%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・各行事の内容について、生徒会執行部による事前アンケートを全生徒に実施し、その結果を踏まえて計画を作成する。行事後、取り組みや満足度を全生徒を対象に取り、結果を報告する。	<ul style="list-style-type: none">・全校で行っている表彰伝達や壮行会。・本校生徒の活躍について新聞に掲載された記事の紹介。・部活動顧問および職員による生徒指導。
評 価	A <ul style="list-style-type: none">・運動会は、天候にも恵まれ約91%の満足度であった。・尚美展は、昨年度より満足度が約6%上昇した。・球技大会は市民体育館も利用するという新しい試みで、87.4%という高い満足度を達成した。	B <ul style="list-style-type: none">・本年度、全体で14名(1.8%)の生徒が退部したが、一方では16名(2.0%)の生徒が新たな部活動に入部した。・全体では、95.1%の入部率となった。しかし、特定の部活動で退部者が多く、部活動単位で考えたとき、85%以上は達成できなかった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・尚美展は、学校外の人にも公開していて大変すばらしい。生徒達もきちんと外部の方に対応をしている。・一部の生徒が床に座っている姿が見られた。椅子等を用意すればどうか。	<ul style="list-style-type: none">・部活動加入が任意であるのに加入率は高いと思う。・指導方法が大変難しい時代であるがしっかりと指導して欲しい。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・各行事での事前準備を十分に行う。・生徒会で各行事の反省点をまとめて次年度に申し送るとともに、改善点を考察する。・特活部の教職員間の連絡を密にし、仕事が良いに行えるような協力体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none">・生徒数の増加を考えた的確な活動場所の確保校舎改築に伴う部室の移転や女子の生徒数増加における女子部室の確保など。・的確な指導方針に基づく人格の形成。・1年生の途中退部者の減少を目指した面接の充実。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成24年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -5-	
重点項目	PTA活動の活性化
重点課題	PTA役員会の活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none">・PTA活動を煩雑で面倒なものと感じている保護者が多く、クラス役員でも全く参加されない方もおられる。・PTA各行事への一般会員の参加が少ない。・生徒を通じてPTA行事の案内をしているが、保護者に渡らない場合がある。
達成目標	役員会の出席率 65%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討する。・PTA通信やホームページなどを利用して活動を積極的に発信する。・一斉メールを活用した情報の共有を推進する。・役員相互の和気あいあいとした雰囲気醸成に努める。・役員会に参加しやすい時間帯、曜日設定について検討する
達成度	・平成24年度 役員会出席率 74.3%(5回の平均) (昨年64.4%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・PTA会長を中心に役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討した。・役員会の開催連絡については、一斉メールの利用や担任の協力を得ながら、連絡が確実に保護者に届くように行った。
評 価	A <ul style="list-style-type: none">・役員会5回(正副会長会議、全体役員会)の平均で70%を超えた。特に、執行部の出席率は、85%を越え、クラス運営委員の出席率も62%となり、各役員の協力を得られた1年となった。・各委員会行事においても、積極的に参加していただき、例年以上の参加者となった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・PTA活動が盛んになることは良いことである。役員だけでなく一般会員に広まれば尚良い。・学校側がきちんとした経営方針を持ってリーダーシップを発揮し保護者がサポートをする。そういう形で学校を盛り上げていくことが大切である。
次年度へ向けての課題	・PTA役員の方だけでなく、PTA行事への一般会員の参加が少しでも増えるようにしたい。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)